

特別講演 2

「慢性腎臓病の個別化医療：病診連携の重要性」

福井大学医学部附属病院 腎臓病態内科学教授

遠山 直志 先生

本邦において慢性腎臓病は成人の 5 人に 1 人、約 2000 万人が罹患しているとされています。これほど多くの腎臓病に対する診療を行うには、腎臓専門医とともにかかりつけ医との緊密な連携がこれまで以上に欠かせません。近年、慢性腎臓病に関する新しいエビデンスや治療薬剤が次々と登場しています。また、ガイドラインに基づく診療が展開される一方で、個々の患者特性を考慮した個別化医療の重要性が高まっています。本講演では、患者の様々な特徴を考慮した個別化医療の可能性について、最近の研究成果をもとに紹介します。また、それらを踏まえ慢性腎臓病の早期発見・早期介入から長期管理に至るまでの病診連携の意義について議論したいと思います。